

2008年9月26日 佐藤宏

一橋大学グローバルCOEプログラム
社会科学の高度統計・実証分析拠点構築
第1回全体会議

地域・市場分析研究グループ 活動計画概要

スタッフ

・事業推進担当者

リーダー:佐藤宏 サブリーダー:祝迫得夫

阿部修人、奥田英信、雲和広、佐藤主光、塩路悦朗、深尾京司、渡辺努

・研究グループ秘書 高田智恵子(ミクロ・理論班と兼務)

森山由美子(データアーカイブ/統括と兼務)

・公募研究者

小川英治(一橋大学商学研究科)、加藤博(一橋大学経済学研究科)

清水順子(専修大学商学部)、橋本英俊(日本大学経済学部)

寶劍久俊(アジア経済研究所) ※今後、若干名追加予定

・客員研究員

李実(北京師範大学所得分配・貧困研究センター主任)

陸銘(復旦大学産業研究センター主任) ※今後、若干名追加予定

研究計画の概要

○21世紀COE「社会科学の統計分析拠点構築」を継承・発展させる事業

- ・アジア長期経済統計プロジェクト
- ・日本産業生産性(JIP)プロジェクト
- ・アジア通貨単位(AMU)プロジェクト

○新しく始める事業

- Asian Survey Research Consortium(仮称)

共同研究=データ資産形成を中心とするアジア(ユーラシア)諸国の研究機関、統計官庁とのネットワーキング

Asian Survey Research Consortium (仮称)

--アジアの研究機関・統計官庁との連携強化

- ・連携実績のある海外の研究機関、統計官庁との連携
 - ⇒一般的な人的交流や会議の開催だけではなく
 - ⇒共同調査の実施＝データ資産の形成を中心に据える形で、強化する。
 - ⇒OJT
- ・拠点の既存資産（アジア長期経済統計やJIPデータベースなど）との補完性を考慮
 - ⇒アジア諸地域（中東、ロシア含む）の研究機関・統計官庁
 - ⇒マイクロデータおよび小・中地域統計の収集・活用につながるサーベイ、共同研究に重点。

2008年度の予定

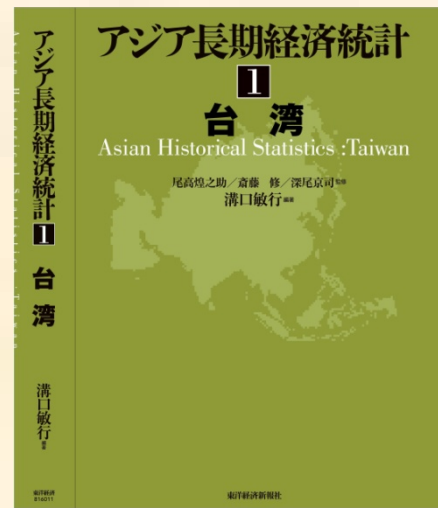
○共同調査

- ・中国 タイ フィリピン 西アジア・中東で世帯調査と企業調査を予定

○招へい(セミナー・ワークショップ開催)

- ・中国、エジプト、ロシアの統計官庁のミクロ・マクロ統計専門家の招へいを予定

アジア長期経済統計プロジェクトの継続



- ・COE--21世紀COEから継続

2008年秋 第1巻『台湾編』刊行予定

- ・その後、年1冊以上のペースで刊行を継続

韓国、中国、インドネシア、ベトナム、フィリピン...

2008年12月 韓国巻ワークショップ開催(ソウル大学)

- ・フローニンゲン大、LSE、ANU、ソウル大等と連携

世界の長期統計をWeb公開するネットワークを構築

- ・欧米アジア経済の長期国際比較に関する年次WS

2007年秋: 国立(一橋)

2008年夏: ヴェニス(ウォーリック・

ハーバード・一橋)

2009年秋: 北京にて予定



日本産業生産性(JIP)プロジェクトの拡充

・21世紀COEから継続 RIETIとの共同プロジェクト

・**JIP**(Japan Industrial Productivity) **データベース**の拡充

⇒産業・企業データの接合

⇒アジアの比較研究

ハーバード大・**EU KLEMS**・ソウル大などと連携

韓国ですでに**KIPデータベース**を公開

日中韓台全上場企業のTFPを比較する**EALCデータベース**の改良・更新も進める。

・東アジアにおける生産性研究の中核拠点を構築

アジア通貨単位 (AMU) のデータベース整備と その応用

- ・21世紀COEから継続 RIETIとの共同プロジェクト
- ・**アジア通貨単位** (Asian Monetary Unit: AMU) + 東アジア
通貨のAMU乖離指標【定期的に更新、拠点&RIETIの
Webサイトで公表】
 - ⇒ AMU (ASEAN10+3) と AMU-wide (ASEAN10+3+3) へ
 - ⇒ 更新頻度: 毎週から毎日へ
- ・AMU & AMU乖離指標を用いた実証分析
 - ⇒ アジアにおける域内為替相場のボラティリティやミスアライ
メントの分析など
- ・アジアにおける為替政策協調に関する政策研究を提言